

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	公明党
代表者名	野島 さつき

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 旅 行 報 告 書

令和 7年 10月 29日提出

活動年月日	令和 7年 10月 8日（水）～令和 7年 10月 10日（金）	
氏名	畑尻宣長	
用務先 及び 内 容	1	用務先 茨城県 龍ヶ崎市
	10月 8日	内 容 防災・減災に関する取り組みについて
	2	用務先 栃木県 宇都宮市
	10月 9日	内 容 第87回 全国都市問題会議
	3	用務先
	10月 10日	内 容 第87回 全国都市問題会議
	4	用務先
	月 日	内 容
備 考		

政務活動調査報告書

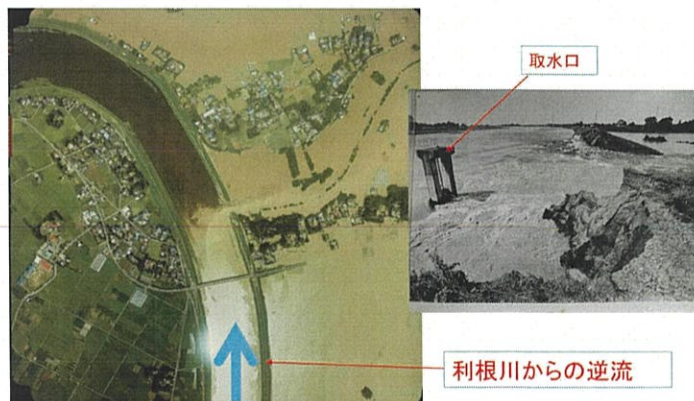
調査日	令和 7 年 10 月 8 日（水）
視察場所	茨城県 龍ヶ崎市
調査項目	防災・減災に関する取り組みについて
視察者名	畑尻 宣長
市の概要	面積：78.59 km ² 人口：74,589 人 人口密度：949.09 人/km ² 世帯：36,472 世帯 経常収支比率：95.6% 実質公債費比率：4.8%

<龍ヶ崎市の地形から来る災害リスク>

昭和 56 年 8 月 24 日 小貝川堤防決壊

台風に伴い短時間に大雨が降り、利根川が逆流し、小貝川で堤防が決壊。被害面積約 3,000ha、床上浸水約 70 棟もの被害を受けました。

→



利根川からの逆流

平成 23 年 3 月 11 日

東日本大震災 震度 5 強

11 時 46 分に発生した東日本大震災では、龍ヶ崎市でも死者 1 名、負傷者 5 名、家屋では全壊 1 棟、半壊 78 棟、一部損壊 7,900 棟超の被害が発生しました。ライフラインでは上下水道官の破損により断水が起きるなど大きな被害を受けました。



<これまでの防災の取り組み>

○危機管理監(元自衛官)の採用

- ① 災害 ②武力攻撃事態及び緊急事態
- ② 事件・事故等の緊急事態等への対応(総合調整)

○各種計画・マニュアルの策定

- ① 市地域防災計画(避難所運営マニュアル等)
- ② 職員災害時初動対応マニュアル(班別対応マニュアル)
- ③ 地区活動拠点運営マニュアル ④業務継続計画(受援計画含む)
- ④ 災害時避難行動要支援者避難支援プラン ⑥地区防災計画ガイドライン
- ⑦自主防災組織活動の手引き ⑧自主防災組織防災訓練実施マニュアル 等



○災害対応の強化に向けた環境整備

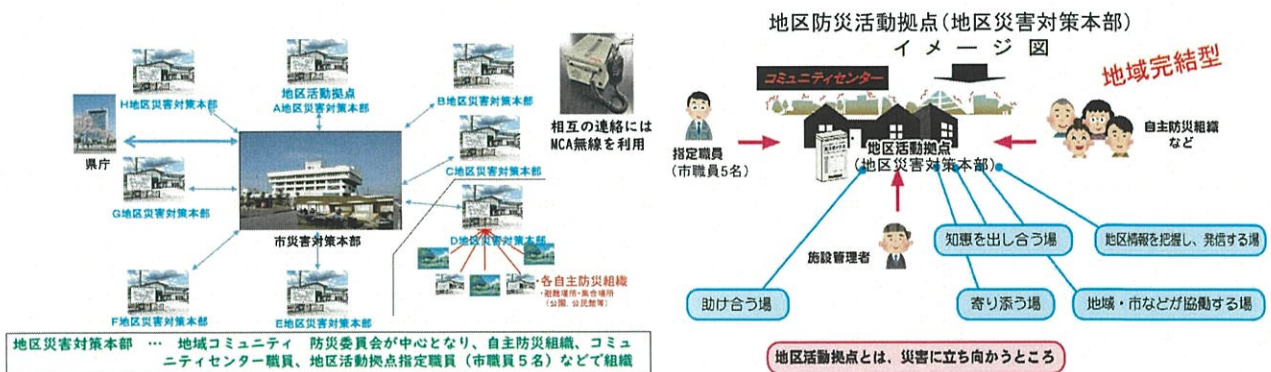
- ① 防災行政無線デジタル化に伴う設備更新・防災アプリの構築、情報発信連携
- ② 気象予報士を活用した気象災害の対応(気象防災アドバイザー)
- ③各コミュニティーセンターの防災活動拠点強化(防災井戸・MCA無線・防災ボックス等設置)
- ③ 飲料水兼用耐震性貯水槽の整備(容量100トン×3基) ⑤AEDの設置
- ⑤ マンホールトイレの整備(各避難所計15基設置) ⑦水のう、止水板の購入

○地域防災力の育成・活性化への取り組み

- ① 自己完結できる地区防災活動拠点制度の構築(地区防災計画の推進)
- ② 自主防災組織の100%組織化及び補助金制度等による活性化
- ③ 消防団を核とした地域防災力の充実
- ④ 防災士の養成及び活性化(防災士連絡会の立ち上げ) ⑤地域防災訓練の充実

<市と地区が連携する地区防災活動拠点の構築>

市災害対策本部と地区災害対策本部との連携



<龍ヶ崎市の防災訓練>

○市主催の総合防災訓練

市、消防署、警察署、自衛隊、ライフライン機関との情報伝達による災害対応、地区住民に対する避難所展開訓練など、総合的かつ実践的な訓練を実施。

○コミュニティー協議会主催(小学校区)の防災訓練

市内 13 競技会が各々の地区の特性に合った防災訓練を展開。

令和 6 年度 13 地区中 10 地区が訓練実施。

【内容】安否確認訓練、地区災害対策本部設置訓練、
救出・救護訓練、避難所解説訓練など

○自主防災組織主催の防災訓練

各自主防災組織が実施する訓練

【内容】安否確認訓練、初期消化訓練、AED を使用した救命講習煙体験など

<龍ヶ崎市消防団水防訓練実施要項>

<目的>

この訓練は、出水時に備え水害予防責任者が共同して水防訓練を実施し、水防技術の向上と水防体制の強化を図り、非常時の万全を期し併せて地域住民の防災意識の普及啓発及び高揚を図ることを目的として実施する。

<日時・集合・会場>

令和 7 年 6 月 15 日(日曜日) 午前 8 時 30 分から午前 11 時 30 分
龍ヶ崎市小貝川市民運動公園

<水防工法指導>

稲敷広域消防本部 龍ヶ崎消防署員 14 名 (消防団員 150 名)

<訓練想定>

雨台風の台風 12 号が関東地方直撃し、小貝川上流では雨量 100 ミリ以上に達し、小貝川の水位は急激に上昇中である。

天候は回復したが、小貝川堤防に漏水箇所が発見され、緊急に水防工法を行う必要が生じ、消防団の出動を要請する。

<準備作業及び打ち合わせ>

- ・水防工法地割
- ・水防工法資機材の準備(土のう作成等)※100 袋ほど
- ・各指令の伝達要領等

- ・各水防工法の開始・終了報告等
- ・服装は、作業着、アポロキャップ、長靴とする。

<自主防災組織に対する補助>

【自主防災組織資機材整備事業】

結成時 資機材整備費 300,000 円、結成事業費 50,000 円→ 合計 350,000 円の補助
 交付を受けてから 20 年を経過 → 150,000 円の補助

※令和 6 年度実績

20 年経過した組織に対する資材補助金 $150,000 \text{ 円} \times 50 = 750,000 \text{ 円}$ 、

- ・防災訓練への職員や消防団、消防職員の派遣や資機材の貸し出し

<防災士の活用>

【防災士資格取得補助】

茨城県で開催されている防災市認定講座の(いばらき防災大学)に係る
 費用(12,000 円)を全額補助

<防災士の人数> 令和 7 年 10 月現在、227 名(内補助金活用 169 名)

<龍ヶ崎市防災市連絡会>

市内在住防災市を会員とし、平成 30 年創設

目的：防災士自身の防災・減災能力の向上

防災士間の地域を超えた協力関係の構築

防災士、行政、専門機関との情報ネットワークづくり

<防災士連絡役員、自主防災組織連絡協議会役員、民生委員児童委員連合協議会役員意見交換会>

- ・令和 6 年度で 3 回目を実施

<テーマ>

防災に対する気持ちの共有・災害時と平時の取り組み・地区ごとの意見交換会実施
 について など

<課題>

- ・避難行動要支援者の支援、対応の今後
- ・要配慮者情報の共有方法、要配慮者の支援方法
- ・自治会加入促進、若い世代(40 代から 50 代)に課題共有や情報提供

<畑尻宣長>

龍ヶ崎市では、これまで地形から来る災害リスクに悩まされてきました。昭和 56 年 8 月 24 日小貝川堤防決壊により、床上浸水約 700 棟もの被害を受けました。また平成 23 年 3 月

11日の東日本大震災の時は、震度5強の地震により死者1名、負傷者5名、家屋においては全壊1棟、半壊78棟と1部損壊は7,900棟を超える被害が発生しました。

近年では令和5年6月2日、3日に大雨を伴う台風の影響により牛久沼越水等で被害が発生しております。

これまで防災の取り組みとして、危機管理監の設置や各種計画、マニュアルの策定、また災害対応の強化に向けた環境整備が行われてきました。やはりその中でも危機管理監の採用と言うのは大変重要であることを再認識させて頂きました。これまでも一般質問や予算要望でこの危機管理官の設置を要望して参りました。現在の岡崎市では、防災担当部長を設置して頂いておりますが、やはり専門的知識を持った危機管理監が必要であると感じています。折に触れ、危機管理監の設置は、岡崎市にとってなくてはならないと考えますので、これからも設置に向け、引き続き働きかけて参ります。

総合防災訓練は毎年行われております。本市との違いは、避難所設営訓練と合わせて災害ボランティアセンターも立ち上げ受付訓練をするところです。避難所運営に関しては本市も力を入れて行っているところですが、同時に災害ボランティアセンターを立ち上げることで、被災を免れた方々が、近隣で、「被災している方々へ、ボランティアで手助けをしたい。」そういったことをスピーディーに行うことができると感じました。これは本市でも災害ボランティアセンター受付訓練を行う事は重要であると思いましたので、実現に向けて提案して参りたいと考えています。

防災士の育成に関しては、防災士の資格取得費用を全額、補助していること、そして資格を取得した後、役割として活躍の場を考えている事は非常に良いことだと思いました。資格を取得して終わりと言うのではなく、その防災士としての役割を存分に発揮できる場を設けていくことが行政として重要であり、手助けをしてくれる存在になると思いました。

これまでも防災士資格取得への補助を提案してきましたが、なかなか実現には至っていません。しかし、防災士の資格を取得することで、その後の役割を明確にし、活躍していただくことも含めて提案して参りたいと思います。以前より災害時の避難行動要支援者に対してどのように助けていくか課題が山積です。この防災士制度を利用することで前に進むのではと考えます。龍ヶ崎市の取り組みを参考に議会で提案し、岡崎市の防災力を高めていきたいと思っています。

以上

政務活動調査報告書

調査日	令和7年 10月9日（木）～10日（金）
視察場所	栃木県 宇都宮市
調査項目	第87回 全国都市問題会議
視察者名	畑尻 宣長
市の概要	面積：416.85 km ² 人口：515,831人 人口密度：1,237.45人/km ² 世帯：244,759世帯 経常収支比率：93.7% 実質公債費比率：3.9%

第87回 全国都市問題会議

<基調講演>

人口減少・成熟社会のデザイン

京都大学名誉教授 広井 良典氏

<主報告>

人口減少社会に対応する都市の構造改革

～100年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～

栃木県宇都宮市長 佐藤 栄一氏



<一般報告>

「縮充」発想による公共施設マネジメント

東洋大学国際PPP研究所シニアリサーチパートナー

南 学氏

都市縮小時代の持続可能なまちづくり

～人がつどい未来に躍動する世界都市・高松～

香川県高松市長

大西 秀人氏

次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり

早稲田大学理工学術院教授

森本 章倫氏

<パネルディスカッション>

【テーマ】

成熟社会の都市のかたち ～コンパクトで持続可能なまちづくり～

【コーディネーター】

埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授

内田奈芳美

【パネリスト】

(株) みちのりHD代表取締役グループCEO

(兼) 関東自動車(株)代表取締役社長

吉田 元氏

まちなか広場研究所主宰

山下 裕子氏

北海道室蘭市企画財政部長

高橋 知規氏

鳥取県米子市長

伊木 隆司氏

<畑尻宣長>

基調講演は、「人口減少・成熟社会のデザイン」と題し、京都大学名誉教授 広井良典氏より講演を頂きました。人口減少時代にあって地方の生き残りをかけた国土ビジョンをどう作り出していくか、様々な都市の事例を紹介して頂きながら、我が町の将来ビジョンを改めて考えるきっかけとなりました。AIを活用した未来シミュレーションは、今考えているまちの在り方を再考させてくれるものとなりました。我が町が発展するのか、生き残るために何が必要か、しっかり分析をしたうえでの、まちづくりを考えていかなければ、少子高齢化に埋もれてしまうだけになっていくように感じました。

宇都宮市の佐藤栄一市長から、「人口減少社会に対応する都市の構造改革～100 年先も発展できる「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成～」と題して主報告がありました。

以前にも宇都宮市には、委員会視察、政務活動費による視察と何度か訪れておりました。

計画段階の話は聞いておりましたが、次世代型路面電車「芳賀・宇都宮LRT」が完成し、運行されていきました。乗車させて頂きましたが、騒音、振動が少なくとても快適な乗り心地であり、低床式で停留場との間に段差がなく、誰でも乗り降りしやすい構造になっていました。また、地域電力会社「宇都宮ライトパワー株式会社」が供給するバイオマス発電などの地域由来の再生可能エネルギーのみで走行する「ゼロカーボントランスポート」であり、人と環境にやさしい運行が実現されました。市長から、完成までの市民への説明会などでの話も披露して頂き、大変なご苦労があったことを知りました。ここまでに至る前には、第5次宇都宮市総合計画基本構想



において、これからの都市像を描く中で「ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」を方向性として位置づけたことから始まっています。作って終わりではなく、公共交通ネットワークを構築するべく、バス路線の再編や地域内交通の運行、公共交通間の連携強化と、同時進行で考えてきた結果です。市長の言葉の中に「次の世代のために」と言われました。「そ

のために、『人をつくる』ことを20年やってきた」結果でもあるということでした。私自身、もっと広い視野を持ちながら、岡崎市を俯瞰してまちづくりを考えなくてはならないと自覚させて頂きました。公共交通は福祉に入ってきている時代に突入してきました。同じこ



LRTの停留場（近くには無料駐車場有）

とは出来ませんが、本市にふさわしいまちづくりを考えだしていきます。

一般報告として「次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり」と題し、早稲田大学理工学術院教授 森本章倫氏による講演では、都市財政という観点から、無理にコンパクトシティ化しなくても良いところもあるという話をお聞きしました。交通手段を変えることで「まち」が変わるということです。科学技術の発展で、車社会から次の交通手段へと転換されつつある。その一つに「自動運転」がある。

これからは、「人中心の交通政策」を考えていく必要があると学ばせて頂きました。

今回の全国都市問題会議では、コンパクトで持続可能なまちづくりというテーマでしたが、岡崎市にとっての最適な公共交通は、どういう形なのか、また、人々が快適に暮らしていける空間を作り出していくためには、どうしたらよいのか、たくさんの事例を通して学ぶことが出来ました。そこに住む市民の方々の思いや意見を聞きながら、公共交通の在り方やまちの在り方を創り出していきたいと思いました。

以上